

Salon

Vol.127 2020年7月 夏号



ホール4F壁画「黄色いブーケとヴァイオリン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 葵トリオ
- 03 Phoenix Presents — ヴァルティナ
レクチャーコンサートシリーズ
「ピアノ三重奏の歴史」
- 05 Pick Up
- 07 Essay de say — 能楽と弦楽四重奏 そして世阿弥とベートーヴェン
澤 和樹

あいおいニッセイ同和損保

関西出身者による、世界を舞台に活躍するピアノ三重奏 葵トリオ

小川響子(ヴァイオリン)

伊東裕(チェロ)

秋元孝介(ピアノ)



©Nikolaj Lund

2018年9月、世界最高峰のコンクールとも言われるARDミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ三重奏部門で、日本から参加していた葵トリオが日本人団体として初優勝を飾った。演奏レベルによっては優勝を出さない厳しさで知られる同コンクールは、過去11回のピアノ三重奏部門で、優勝団体は葵トリオで5団体目という。さらに2018年は2位に該当団体が無く、2団体に3位が送られた結果が、葵トリオの演奏が如何に優れていたかを証明しているだろう。

現在はドイツに拠点を移して活動を続けるトリオだが、実は3人とも関西出身。メンバー共通の思い出や、子供の頃のザ・フェニックスホールでの体験などもあり、関西は3人にとってとても馴染みの深い場所。コンクールの優勝から2年が経ち、ドイツでの研鑽を経て更に磨きのかかったトリオが11月にザ・フェニックスホールに初登場。トリオでの活動や演奏するプログラムについて語ってもらった。

(取材・文:桑田開/音楽ライター)

葵トリオ(あおいとりお/ピアノ三重奏団)

第67回ミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ三重奏部門で、日本人団体として初の優勝を受賞した、現在最も注目を集めるピアノ三重奏団。東京藝術大学、サントリーホール室内楽アカデミーで出会い、2016年に結成。「葵/AOI」は、3人の名字の頭文字をとり、花言葉の「大望、豊かな実り」に共感して名付けた。2019年4月、ハイドンとシューベルトを収めたデビューアルバムをリリースし、音楽雑誌で推薦された。第28回青山音楽賞パロックザール賞、第29回日本製鉄フレッシュアーティスト賞を受賞。現在は拠点をドイツに移し、トリオ・ヴァンダラーのV.コック、フォーレ四重奏団のD.モールツに師事しながら国内外で活動している。

公式ホームページ: <http://aoitrio.com/>

「葵トリオ」は、2020年11月20日(金)14時開演。指定席。お茶菓子付で、一般3,000円、友の会会員2,700円。学生1,000円(限定数、25歳以下)。

*現在チケット販売は停止しております。

[プログラム]

ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第4番 変口長調「街の歌」op.11

細川俊夫:メモリー –伊伊桑の追憶に–(1996)

ラヴェル:ピアノ三重奏曲

メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第2番 ハ短調 op.66 (予定)

常設アンサンブルならではの音楽を

葵トリオは2016年結成と伺いましたが、結成のきっかけや、本格的に活動を始めた経緯を教えて下さい。

小川と伊東は東京藝術大学の同学年でしたが、秋元は1学年下だったので接点はありませんでした。3人がサントリーホール室内楽アカデミーに同時期に参加していて、全員が関西出身ということもあって「いつかトリオを演奏してみたいね」という話をしていました。

その後、大学の授業でトリオを組んで演奏を始めましたが、今のように頻繁に演奏活動を行うようになったのは2018年のコンクールで優勝してからです。受賞は勿論嬉しかったのですが、優勝団体としてトリオの活動を継続するという責任感も芽生えたのが正直なところですね。

3人とも関西ということは、子供の頃から知り合いだったのですか？

秋元は大学に入ってから知り合いましたが、小川と伊東は中学生くらいの頃には京都フランス音楽アカデミーなどでお互いの演奏を聴いていました。お互いに「なんか凄い上手い子がいるな」と(笑)。

秋元が他の2人の演奏に接した時には、2人が既に弦楽四重奏を組んで国際コンクールなども目指していたので、「室内楽に熱心に取り組んでいるな」という印象でしたね。

子供の頃のザ・フェニックスホールの思い出などありますか？

(小川)ザ・フェニックスホールはヴァイオリンコンクールで演奏していたので、とても緊張した思い出があります。

(伊東)子供の頃に師事していた斎藤建寛先生がコンサートシリーズで演奏していたので、その際は何度も通いました。

(秋元)高校生の頃にジャパン・ストリング・クワルテットのマスタークラスを聴講に行きました。実はそこで室内楽の奥深さを体感して、室内楽に本格的に取り組みたいと思い始めたのです。ですので、今回はそのホールに室内楽奏者として出演できて本当に嬉しく思います。

今回のプログラムはとてもバラエティ豊かですね、邦人作品も組み込まれています。

細川先生はヨーロッパでもとても有名で、こちら

で演奏すると聴衆にとても喜んでもらえます。毎シーズンのレパートリーを考える際には、近現代の作品も演奏するようにしています。その中で、日本のアンサンブルなので邦人の作品を紹介するのは有る種の責務かなとも思っています。

メンデルスゾーンは、トリオでは1番が有名かもしれませんのが、2番もとても素敵な作品です。各楽器の役割が室内楽的に作曲されていて、音楽の構造もとても素晴らしい。出てくるメロディーも親しみやすい旋律が多く、最終楽章で出てくるコラールではとても解き放たれたような音楽になります。私達もこの作品は思い入れがあるので、今年の1月にはレコーディングも行いました。

2020年はベートーヴェン記念年ということで、第4番「街の歌」も演奏してくれます。ベートーヴェンは個々の楽器にも重要な作品を残していますが、それらの作品と比べてピアノ三重奏曲は何か違いはありますか？

チェロ・ソナタも初期、中期、後期と作品がありますが、時代ごとの性格は似たようなものを感じますね。今はトリオの2番(作品番号1-2)を取り組んでいますが、チェロ・ソナタの2番(同5-2)と雰囲気が近いと思っています。

ピアノの場合はベートーヴェンの32曲のソナタは新約聖書のような存在で、とても崇高で簡単には近寄り難い印象もありますが、トリオはそれに比べると親しみやすく感じます。もちろん、偉大な作品ではありますけどね。

ヴァイオリンは、ソナタではオブリガードや高音域でのメロディーを弾いていることが多いですが、トリオでは役割が多様化して内声部を演奏していることが多いです。弦楽四重奏で例えると第2ヴァイオリンのパートのような役割を演奏することも多いですね。

トリオで練習するときは、何か注意していることはありますか？

それぞれ他の活動もあるので、1年中毎日のようにリハーサルを出来るわけではありませんが、それでも「1回の本番のために2-3日で音楽を仕上げていく」という準備ではありません。葵トリオとして音楽を練っていくために、最低でも10日から2週間位は準備期間を設けています。

最近は前述のように集中して練習を行う1ヶ月ほ

ど前に、短時間でも一度合わせておくようにしています。一度3人で練習しておくと曲の全体像が捉えやすくなり、個々の準備時間が充実して、結果的にリハーサルがより効果的に進められるようになりますね。

目標としているピアノ三重奏やアンサンブルはありますか？

過去にはボザール・トリオのような素晴らしい先達がいましたので、そのような活動ができれば良いとは思いますが、ボザールの実演に接したこと無いのはとても残念です。

現在活動されているピアノ三重奏ですと、私達が師事しているヴァンサン・コック先生が演奏されているトリオ・ヴァンダラーがあります。東京で聴いたヴァンダラーの音楽には本当に驚かされました。ピアノ三重奏はソリストが集まって演奏されることが多いですが、それとは全く異なったタイプの音楽なんです。しかし「常にリズムやタイミングなどが完璧に整然と合っている」という演奏とも違っていて、より高次元で音楽が共有されていて聴き手に伝わってくる。室内楽として最終到達地点を「聴いた」というより「体感した」ような気分です。これはCDなどでは感じられない貴重な体験で、「感動」という言葉だけでは言い表せない、心に深く刻まれ、記憶に残る公演です。この体験で「ピアノ三重奏の音楽とは」とより真剣に考えるようになりました。

葵トリオの今後の目標をお願いします。

具体的な活動でいえば、今年のようなベートーヴェンだけでなく、様々な作曲家のサイクルを行うなど、常設のアンサンブルならではのプロジェクトに携わっていきたいですね。また、ドイツや日本だけでなく、アメリカや他の国々へのツアーも行ってみたいですね。

しかし長期的な目標となると、常設の団体としての「継続」となるでしょう。同じメンバーで室内楽を継続する際には、それぞれの生活の変化が関わってくる。住む場所や家族の変化などで影響を受ける部分もあると思います。今後3人それぞれのライフステージがあると思いますが、常に3人が同じ熱量を持って葵トリオに注力していくこと。それが「継続」だと思っています。



発売日変更のお知らせ

情報誌Salon7月号内3-4ページ掲載、1/30(土)「ヴァルティナ」、2/13(土)レクチャーコンサート「ピアノ三重奏の歴史」のチケット発売を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今後の情勢をみながら座席設定等を検討するため、7月の発売を見送させていただきます。

次号9月号での発売を予定しておりますが、状況変化に伴い今後も変更の可能性がございますので、何卒ご賢察の上、ご理解賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

■世界一周音楽の旅29

2021年1月30日(土)

15:00開演 指定席
一般¥4,500(友の会会員¥4,050)
学生(25歳以下)¥1,500(限定数)

神話の国フィンランドより届いた大地に響く神秘の歌 ヴァルティナ

出演 マッリ・カーシネン、スサン・アホ、カロリーナ・カンテリネン
(以上ヴォーカル、アコーディオン、カンテレ、オーバートーンフルート、パークッシュン)
曲目 Rajan Joiku Mieleni Alenevi
Varri Ompi Zaijuves Aitaro 他(予定)
*都合により曲目などが変更になることがあります。あらかじめご了承下さい。



世界一幸せな国といわれるフィンランドからやってくる伝統音楽グループ「ヴァルティナ」。フィンランドといえば、クラシック音楽ファンにとってはシベリウスが有名だが、彼もまた自国の民族音楽に色濃く影響を受けた作曲家である。特にヴァルティナの本拠地であるロシアの国境近くのカレリア地方は素晴らしい民族音楽が根付いている地域であり、ヴァルティナはその代表格として世界中で演奏活動を行っている。彼女の最大の特徴は、ブルガリアン・ヴォイスにも似た独特的の歌唱法にある。日本でいう演歌や民謡の“こぶし”的であり、大地に轟くうなりのような響きの歌である。数多くの神話が生まれた国フィンランドならではの、神話的世界を具現化するような魂の奥底を震わせる神秘の歌声を存分に堪能して欲しい。

ヴァルティナ(Värttinä／ヴォーカル)

フィンランドの東側、カレリア地方で1983年に結成。ヴァルティナは日本でも最初に有名になった北欧伝統音楽グループであり、“北欧にヴァルティナあり”と評される。不思議なポリリズムのコーラスや変拍子は、世界を代表する民族歌唱法としてブルガリアン・ヴォイスと併せて紹介されることも多い。現在も北欧シーンを世界に向けて牽引。ヴァルティナが成功し続けていることが、全北欧音楽シーンに大きな影響を与えている。2013年新ヴォーカルカロリーナ・カンテリネンを迎えて、カレリアの自然と伝統を回帰する13枚目のアルバムが話題作となる。1987年カウステイネン・フォーク・ミュージック・フェスティバルで、最優秀アンサンブルの受賞を皮切りに、世界で数えられない音楽賞と、フェスティバルのメインアクトとして出演している。

チケットセンター来店窓口 臨時休業継続のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続きビル8階のチケットセンター来店窓口を臨時休業いたしております。恐れ入りますが、チケットのご予約・ご購入につきましては、お電話にてお申込みをお願いいたします。チケットの引き取りにつきましては、当面の間、郵便局からご入金後、送付のみとさせていただきます。

お客様には大変ご不便をおかけいたしますが、何とぞご了承くださいますようお願い申し上げます。

<来店窓口臨時休業中> チケットのお申込み後のお受け渡し方法

先に郵便振り込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいたから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。なお、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ95

主催 レヒネル・トリオ事務局

2021年2月13日(土)

14:00開演 自由席

一般前売¥2,500(友の会会員¥2,250)

一般当日¥3,000(友の会会員¥2,700)

学生前売¥1,500

学生当日¥2,000

※友の会割引は1会員2枚まで。

※学生は25歳以下限定。

レヒネル・トリオ×松井拓史。弦楽器はいかに自立していったか?
ピアノ三重奏の誕生と変質を追う。

レクチャーコンサートシリーズ
「ピアノ三重奏の歴史」
第1回：弦楽器が歌い出すとき

出演 長尾春花(ヴァイオリン)、水野優也(チェロ)、水谷友彦(ピアノ)、松井拓史(レクチャー)

曲目 ハイドン：ピアノ三重奏曲 第25番 ト長調「ジプシー」Hob.XV:25より 第1楽章、第3楽章

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調「大公」op.97より 第1楽章

ブラームス：ピアノ三重奏曲 第1番 口長調 op.8(改訂版)より 第1楽章

ピアノ三重奏という演奏形態が生まれたのは18世紀後半、バロック時代のトリオ・ソナタというジャンルから派生したと言われています。当時はまだ「伴奏付きソナタ」つまり鍵盤楽器が主役で、弦楽器はあくまで伴奏的な役割を担うものと考えられていました。その後、弦楽器が次第に独立性を獲得していく、19世紀ヨーロッパ社会のサロン文化の中で、ピアノ三重奏は私的でロマンティックな音楽を担うジャンルとして認められるようになります。

今回は数あるピアノ三重奏曲の中から、ハイドンの「ジプシー」、ベートーヴェンの「大公」、そしてブラームスの第1番を取り上げ、こうした変化の歴史を追っていきます。どれもピアノ・トリオのレパートリーには必ずと言ってよいほど入っている作品ですが、各楽器の役割に注意しながら聴き比べてみると、それぞれが異なる特徴を持った、しかしどれも驚くほど立体的な音楽であることに気がつきます。また、3人の作曲家はそれぞれハンガリーに縁が深く、現在ハンガリーで活動している我々が取り上げるにはうってつけと言えます。ピアノ三重奏の歴史、そしてハンガリーという2つのポイントから眺めることで、これまで演奏し尽くされ、聴き尽くされてきた名曲がまったく新しいものとして聴こえてくる、そんな体験をしていただければと思います。

長尾春花(ながお・はるか／ヴァイオリン)

東京藝術大学、同修士課程を首席で卒業。同博士課程を修了、博士号(音楽)取得。リスト音楽院ヴィオラ科修士課程修了。日本音楽コンクール第1位、増沢賞、レウカディア賞、鶯見賞、黒柳賞。ロン=ティボー国際音楽コンクール、仙台国際音楽コンクール、ペカット国際コンクール入賞。静岡県文化奨励賞、上尾市栄誉賞、松方ホール音楽賞受賞。カンポキアーロ国際音楽コンクール第1位、特別賞、Gianluca Campochiaro賞(全部門1位)受賞。カール・フレッシュ国際ヴァイオリンコンクール第1位、優れたモーツアルトの演奏に贈られる特別賞受賞。2018年、NYカーネギーホールにて、F.ヴァッキのヴァイオリン協奏曲を演奏。2016年よりハンガリー国立歌劇場管弦楽団コンサートマスター。Szigeti Quartet(シゲティ弦楽四重奏団)第1ヴァイオリン。2019年よりリスト音楽院にて教鞭を執る。

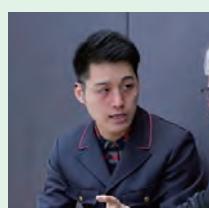


水野優也(みずの・ゆうや／チェロ)

第83回日本音楽コンクールチェロ部門第3位。第13回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞。第23回コンセール・マロニエ21弦楽器部門第1位。ソリストとして、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団などと共に演。武生国際音楽祭、いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」などに出演。これまでにチェロを河地正美、常光聰、倉田澄子の各氏に師事。江副記念リカルド・財団奨学生。ローム ミュージック ファンデーション奨学生。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)を首席卒業。特待生として桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマ・コース修了。現在、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学にてミクローシュ・ペレーニ氏に師事。

水谷友彦(みずたに・ともひこ／ピアノ)

大阪府立夕陽丘高校音楽科を経て、大阪音楽大学演奏家特別コースを首席で卒業。同大学院を修了。学内にて最優秀賞を受賞。PTNAピアノコンペティション全国大会 D級金賞、全日本学生音楽コンクール高校の部大阪大会第1位、宝塚ベガ音楽コンクール第2位など。また室内楽や歌曲伴奏にも精力的に取り組んでいる。これまでに芹澤佳司、横田知子、青柳晋、仲道郁代、芹澤文美、ガーポル・エックハルトの各氏に師事。またジリ・フリンカ・ピアノアカデミーにてレイフ・オヴェ・アンスネス、ベルトラン・シャマユ両氏のマスタークラスを受講。現在、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学に在籍。



松井拓史(まつい・たくし／レクチャー)

大阪大学外国語学部ハンガリー語専攻、および同大学大学院文学研究科博士前期課程(音楽学)修了後、同研究科博士後期課程(音楽学)在学中。日本学術振興会特別研究員(DC1)。2015年9月より1年間、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学を拠点に調査を行う。研究対象は、第二次世界大戦後にソ連および旧東欧地域で設立された国立民俗舞踊団および同時代の芸術活動。これまで、ハンガリー国内での演奏会において4度のレクチャーを行う。ハンガリー国営放送M1のインタビュー番組および私営ラジオ番組にゲスト出演(2017年12月、2018年12月)。

Pick Up ピックアップ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛
公演

プラジャーク・クワルテット

ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 後期作品全曲ツイクルス(全3回)

ベートーヴェン生誕250周年記念

主催 コジマ・コンサートマネジメント

2020年10月13日(火)・14日(水)・15日(木) いずれも19:00開演 指定席

一般前売・当日 各回¥6,000(友の会会員¥5,400) 全曲券[3公演] 一般前売¥16,500(友の会会員¥15,500)

※全曲券は前売のみ・限定数 ※友の会割引は前売のみ

発売中

- 出演 ヤナ・ヴォナシュコーヴァ、ヴラスティミル・ホレク(以上ヴァイオリン)
ヨセフ・クルソニュ(ヴィオラ)、ミハエル・カニュカ(チェロ)
曲目 [10/13]ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第16番 へ長調 op.135
弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 op.132
[10/14]ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 op.127
弦楽四重奏曲 第14番 嬰ハ短調 op.131
[10/15]ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 へ長調 Hess34
弦楽四重奏曲 第13番 変口長調 op.130/「大フーガ」op.133

チェコを代表する名門プラジャーク・クワルテット現メンバーによる最後の日本公演。
ベートーヴェン生誕250周年記念 ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 後期作品全曲ツイクルスを三夜連続で一挙演奏いたします。どうぞお楽しみください。



協賛
公演

KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka ~関西圏の最大拠点 梅田で展開する藝術音樂~ アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2020年11月16日(月) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥6,000(友の会会員¥5,400)

12/16「今峰由香(ピアノ)」とのセット券¥9,800 ※2公演セット券は前売のみ・限定数 ※友の会割引は前売のみ

出演 アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)

- 曲目 ショパン:ノクターン 第1番 変口短調 op.9-1
ノクターン 第8番 変ニ長調 op.27-2
ノクターン 第4番 へ長調 op.15-1
ノクターン 第20番 嬰ハ短調 遺作
リスト:ピアソナタ 口短調
プロコフィエフ:ピアソナタ 第8番 変口長調 op.84

1974年 弱冠18歳でチャイコフスキイ国際コンクール優勝。輝かしい栄光の後に到来した悲劇的な苦悩を克服して完全復活。昨年18年ぶりの来日公演での大喝采にお応えして再演が実現!今期、国内リサイタルは当ホールのみ。お聴き逃しなく!!



協賛
公演

オーギュスタン・デュメイ&関西フィルハーモニー管弦楽団 オータム・スペシャルコンサート

主催 公益財団法人
関西フィルハーモニー管弦楽団

7/22(水)
発売

2020年11月24日(火) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生(25歳以下)前売・当日¥2,000

出演 オーギュスタン・デュメイ(ヴァイオリン)、
フランク・ブラレイ(ピアノ)、
関西フィルメンバー

- 曲目 ショーソン:ヴァイオリン、ピアノと弦楽四重奏のための
コンセール ニ長調 op.21 他

大阪の街中の“音の聖域”で、音楽監督デュメイ&関西フィルの魅力を体感していただくオータム・スペシャルコンサート!あのフランク・ブラレイをゲストに迎え、関西フィルのメンバーたちとともに、デュメイが夢幻のヴァイオリンを奏でるショーソン《コンセール》をメインにお贈りいたします。あなたの眼の前の緊密な空間で奏でられる、極上のアンサンブルを存分にご堪能ください。これぞ小規模ホールならではの醍醐味!



協賛
公演

KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka ~関西圏の最大拠点 梅田で展開する藝術音樂~ 今峰由香 ベートーヴェン: 最後の3つのソナタ ～ベートーヴェン 満250歳の誕生日を記念して

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2020年12月16日(水) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会会員¥4,500)

11/16「アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)」とのセット券¥9,800 ※2公演セット券は前売のみ・限定数 ※友の会割引は前売のみ

出演 今峰由香(ピアノ)

- 曲目 ベートーヴェン:ピアソナタ 第30番 木長調 op.109
ピアソナタ 第31番 変イ長調 op.110
ピアソナタ 第32番 ハ短調 op.111

数々の歴史的巨匠達が教授を務めてきた名門 ミュンヘン国立音楽大学教授を長年務める名手・今峰由香がベートーヴェン: 最後の3つのソナタをベートーヴェン満250歳の誕生日を記念して演奏いたします。





大阪ギターサマー新設 「ギター・ア・ラ・カルト」の試み



大阪ギターサマーでは、今年、新たに「ギター・ア・ラ・カルト」というコンサートを企画しました。ソロ楽器として演奏されることが多いクラシックギターですが、このコンサートではアンサンブルの魅力をお届けします。演奏を担当するのは、ギター・アンサンブル・ワークショップの指導でおなじみの関西を拠点に活躍するギタリスト4人、岩崎慎一さん、益田展行さん、猪居謙さん、猪居亜美さんです。

今回お届けするのはデュオとカルテットです。デュオでは、岩崎&益田デュオで、ファリヤ作曲 歌劇『はかなき人生』よりスペイン舞曲第1番。全2幕からなるオペラが原曲です。色んな楽器で演奏されることも多くスペインの薰りたっぷりの人気曲です。2曲目は猪居謙&亜美デュオ。モリコーネ作曲 ニュー・

シネマ・パラダイスを披露します。1988年公開のイタリア映画の主題歌で、CMやテレビ番組でも頻繁に使われているので耳にしたことがある方も多いのではないかと思います。とても綺麗な旋律で心に沁みるメロディを、ギタリスト・鈴木大介さんの編曲でお楽しみください。

カルテットは、林そよか作曲 4つの海の物語。この曲は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールがギター・アンサンブルのために2019年に委嘱し世界初演をした作品です。夏の海を感じられる爽やかな曲をお楽しみください。最後に大曲、ムソルグスキー作曲 組曲「展覧会の絵」で締めくくります。ピアノや管弦楽で演奏されることが多い曲ですが、今回は岩崎さんが編曲したギターカ

ルテット版で挑みます。この組曲のなかで、繰り広げられる世界は、必聴です。

■公演情報 再販売7/17(金)10:00より
「ギター・ア・ラ・カルト」は、2020年8月30日(日)13:00開演。一般2,000円、友の会会員1,800円、学生1,000円(限定数、25歳以下)。チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

[プログラム]

林そよか:4つの海の物語
ファリヤ:スペイン舞曲 第1番
～歌劇「はかなき人生」より～
モリコーネ(鈴木大介編):
ニュー・シネマ・パラダイス
ムソルグスキー(岩崎慎一編):
組曲「展覧会の絵」

冒険心に満ちたオール・ロシアン・プログラム

今井信子さんが企画し、タッグを組むのはロシア出身の作曲家でピアニストのレーラ・アウエルバッハさん。彼女の作品に惚れ込んだ今井さんの呼びかけによって実現した本コンサートは、冒険心に満ちたオール・ロシアン・プログラムとなりました。

レーラ・アウエルバッハさんは、プロフィールにもあるようにまさに多才。作曲、ピアノ演奏の他、詩の創作、オペラ台本の執筆、絵画、彫刻の創作まで幅広く活動しています。2016年、東京・春・音楽祭での来日公演では、自作曲<ピアノのための24の前奏曲>とムソルグ斯基の<展覧会の絵>を演奏し、喝采を浴びました。演奏はまさに伝統的なロシア・ピアニズムを彷彿とせるもので、ダイナミックで歌心に溢れた独自の世界を築きました。

そして今回最も注目すべきはそのプログラム。まずショスタコーヴィチの<ヴィオラとピアノのための即興曲>。この曲は近年ロシアの音楽学者によって発見されました。作品番号は33ですが、既に<The Counterplan>

という映画音楽がその番号を当てられています。今回演奏する作品は、この映画音楽とは全く関係のない作品なのです。なぜ同じ番号の作品が存在するのか。その謎についてはコンサート当日に明らかになるでしょう。作品は小品ですがとても美しい曲です。是非、楽しにしておいてください。

それでもう一曲、アウエルバッハさんの<ヴィオラとピアノのための24の前奏曲>。彼女は、既にピアノ、ヴァイオリン、チェロ、ヴィオラの4つの24の前奏曲(他にも<テルミニのための10の前奏曲>という曲集もあります)を作曲されています。24の前奏曲といえばバッハであり、他にもショパン、ドビュッシー、ショスタコーヴィチなど、様々な作曲家が作曲していますが、4つの曲集を作曲している人は殆どいないでしょう。24の前奏曲に並々ならぬこだわりを感じます。一番新しいヴィオラ版は、各曲にパリ、ベルリン、ハノーファーなど都市の名前が付けられています。副題がWonderer(さすらい人)ということ

からも色々と想像できそうです。

2人のこだわりがぎっしりと詰まっている今回のコンサート。是非ともお楽しみに。

宮地泰史(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール チーフ・マネージャー)

■公演情報

「今井信子×レーラ・アウエルバッハ ~ヴィオラとピアノのための24の前奏曲~」は、2020年12月10日(木)19:00開演。一般4,000円、友の会会員3,600円、学生1,000円(限定数、25歳以下)。

※現在チケット販売は停止しております。

[プログラム]

プロコフィエフ:ピアソナタ 第2番
ニ短調 op.14
ショスタコーヴィチ:ヴィオラとピアノのための即興曲 op.33
プロコフィエフ(ボリソフスキイ編):
バレエ音楽「ロメオとジュリエット」より
アウエルバッハ:ヴィオラとピアノのための24の前奏曲(2018)

能楽と弦楽四重奏 そして世阿弥とベートーヴェン

— 澤 和樹



Keizo Matsui

1990年11月に結成した澤クワルテットが今年、創立30周年を迎え、折しも生誕250周年を迎えるベートーヴェンによる中期・後期の弦楽四重奏曲10曲を4回のシリーズで開催予定でした。通常であれば、今頃は5月の公演を終え、7月以降の公演の準備をしているところですが、春先からの新型コロナウィルス感染拡大防止策の出口がなかなか見えない中、シリーズ全体を1年程度延期させていただくことになりました。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲は、私にとって特別な存在です。16歳で、当時初来日だったハンガリーのバルトーク弦楽四重奏団の演奏(この時はベートーヴェンではありませんでしたが)に涙が止まらないほどの感銘を受け、弦楽四重奏結成を夢見ながらも20年の歳月をかけてようやく現在の仲間達と出会い、結成10周年記念のベートーヴェンの弦楽四重奏全曲チクリスを目標にハイドン、モーツアルトやロマン派、近代の名曲の中に1年に2曲のペースでベートーヴェンのレパートリーを加え、年平均40回にも及ぶ演奏会を重ねました。当初は、とりわけ後期の作品のテクニック的な難しさと内面の理解が進まず苦労しましたが、30代以降、難聴が進み、ほとんど音の世界から隔絶された中、ひたすら心の音を紡いできたベートーヴェン晩年のピアソナタ、第九交響曲、弦楽四重奏の世界は、自問自答の末に導き出された確信に満ちたものであったに違いありません。

観阿弥、世阿弥が能楽を芸術の域にまで高め、以来600年の伝統が継承されていますが、その間さまざま革新的な試みも行われてきました。日本能楽会会長で人間国宝の野村四郎氏も、伝統に深い敬意を払いつつも常にチャレンジを恐れない姿勢を貫いて来られました。1999年3月に、

松下 功氏作曲の『能と弦楽四重奏のための藤戸』を野村氏と澤クワルテットで共演させていただいたのをきっかけに、その後、2009年には世界文化遺産の熊野速玉大社本殿でも能楽と弦楽四重奏に共通する「極限にまで洗練され凝縮された芸術」を共有させて頂けたことは大きな喜びでした。一昨年9月末に予定された文化庁創立50周年を祝う式典で、「和と洋」「伝統と革新」といったコンセプトをテーマに記念演奏を…とのリクエストに、迷わず能楽と弦楽四重奏の共演をご提案しました。野村氏から、「世阿弥の『是非初心忘るべからず』の『是非』とは自問自答、すなわち『かくあるべきか？　かくあるべし！』という意味で、この言葉をベートーヴェンも使っている」とお聞きし、思いついたのがベートーヴェン最晩年の弦楽四重奏曲第16番と野村四郎氏の創作仕舞による共演です。ベートーヴェン最後の完成作品となったOp.135の最終楽章冒頭には、Der schwer gefaßte Entschluß(ようやくついた決心)という走り書きとともに、2つのモティーフを音符で表した下に、歌詞の様に“Muß es sein?(かくあるべきか?)” “Es muß sein!(かくあるべし!)”と書かれています。この謎めいた言葉の真意は定かではありませんが、天才ベートーヴェンが死の直前に到達した境地を、更に400年も前に世阿弥が「花鏡」に記していることには、極めて感慨深いものがあります。

Der schwer gefaßte Entschluß



澤 和樹(さわ・かずき)/指揮・ヴァイオリン —

1979年、東京藝術大学大学院修了。「安宅賞」受賞。ロン=ティボー、ヴィエニアフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダル受賞などヴァイオリニストとして国際的に活躍。'96より指揮活動を開始。九州交響楽団、東京フィル、日本フィル、札幌交響楽団、紀尾井ホール室内管弦楽団等にも客演し、好評を博す。2004年、和歌山県文化賞受賞。東京藝術大学教授、音楽学部長を経て2016年より東京藝術大学長。澤クワルテット主宰。千里フィルハーモニア・大阪常任指揮者。



©新津保 建秀

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損害ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損害フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2020年7月
発 行 あいおいニッセイ同和損害
ザ・フェニックスホール
編 集 諸藤修一
デザイン 松井桂三有限会社

